Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2024-05-25

巻頭言: 過去の財産を活かそう

西田, 修身

(Citation)
海事博物館研究年報,32

(Issue Date)
2004-03

(Resource Type)
other

(Version)
Version of Record

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/81005625

巻頭言

過去の財産を活かそう……

前海事科学部長　西　田　修　身

地球表面の約71％は海であり、今日約10^6万総トンの船を約130万人によって支えられ、運航業務や種々に就労しています。特に我が国は四面海に囲まれ国民一人当り、年約７トンの物資輸送を船に頼っています。

海・船・港の変遷を知ることは、人々の生活や社会経済、文化・歴史を知るうえに不可欠なことといっても過言ではありません。そのためには国際港湾都市神戸の一郭“深江キャンパス内”に種々海事資料を積極的に収集し、教育研究面並びに海事思想普及のために、系統的に整備する必要があります。昨秋10月5日付で海事資料館から博物館へ改名昇格しました。

本博物館の意義と発展史を大略的に紹介させていただきます。88年前の川崎商船学校創立時より、船の模型類、文書類を収集し、学生の教育参考に供されてきました。さらに国民の海事思想普及のために、高等商船学校第二代校長の小関三平先生が力を注がれました。初代館長小谷信市先生、二代目館長南波松太郎先生らによって、学生の協力も得て調査団を結成し、深江丸による瀬戸内海地方を中心に、資料収集がはじめられ、いまなお継続されており、大いに成果をあげています。今日では卒業者（主に一期生）の方々によって資料の整備をしていただき、保存に力を注いでいただいております。

以上、類々記しましたように、多数の先輩並びに先生方によって、今日の博物館の発足があり得たことに、深心より感謝申し上げます。

約２万点近い所蔵品は本館、分室（一号館一階）並びにポンドの進徳丸メモリアルに至るまで、一般の人々の縦覧に供しています。主な内容は西洋型帆船模型、航海用器具、レシプロ機関模型など広い分野にわたっています。さらに航海の日々を慰め、雄偉の心を育てた船歌（テープに収録）等が収蔵されていますが、北前船の模型（全長1.06メートル）や六曲一双の海路図屏風、和船絵馬など、和船関係の貴重な資料に特色があります。

昨秋10月芦屋在住の山田早苗先生（広島大学名誉教授、医博）より戦前・戦中の日本商船4,600隻の船舶資料及び100隻の船舶模型をご寄贈頂き、博物館の充実に努めております。また、収蔵資料のデジタル化にも力を注ぎ、海事科学部のホームページから見ることができます。

統合・法人化後の博物館の運営の一策として、国土交通省港湾局の進める「みなとの博物館」ネットワーク等に参画し、国家の財産を大いにアピールし、自活自営を目ざし努力する必要があります。

今後とも、皆々様の熱いご助言とご支援をお願い申し上げます。

参考図書：神戸商船大学50周年記念誌、（昭和46年９月20日）

平成17年正月